

平成23年度大阪府学力・学習状況調査結果について

～はじめに～

調査の目的について

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、府内全体との状況との関係において、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

全国学力・学習状況調査との違い

昨年度までは、全国学力・学習状況調査の結果について分析を行ってきた。しかし、本年度は、全国調査は実施されず、これに代わるものとして大阪府学力・学習状況調査が、大阪市、堺市を除く府下全市町村で実施されたため、その結果について分析を行った。両者の出題傾向は概ね同等であり、アンケート調査項目については、同じ項目も多く含まれている。従って、教科問題の難易度、調査実施時期等、昨年度までとの違いを踏まえた上で、経年比較も含め分析を行った。また、本年度から新しく中学校英語が調査に加えられている。

調査の概要

調査日：平成23年6月14日（火曜日）
調査対象：小学校6年生 54校 4604人
中学校3年生 26校 3536人

調査内容

小学校：国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）
国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）
中学校：国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）
国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）
英語（「知識」及び「活用」に関する問題）
小中共通：児童生徒質問紙調査
（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
学校質問紙調査
（指導方法に関する取組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

平成23年度大阪府学力・学習状況調査 結果と分析

調査結果について

本調査で得られる結果は学力の特定の一部であることや、平均正答率のみでは児童生徒の学力ならびに児童生徒の学力と関係する要因については測ることができないことを踏まえ、昨年度の全国学力・学習状況調査と同様、本調査から得られたデータをもとに学校・家庭・地域が学力に関する課題を共有し、さらなる連携を深め、スクラムを組み児童生徒の学力向上に取り組むことを目的として分析を行いました。

教科の結果と分析

教科と教科の意識調査の結果について

各教科・教科の意識調査の結果とその分析です。新しいウインドウに PDF ファイルを表示します。

- ・ 小学校国語
- ・ 小学校算数
- ・ 小学校教科の意識調査
- ・ 中学校国語
- ・ 中学校数学
- ・ 中学校英語
- ・ 中学校教科の意識調査

生活習慣や学習意識に対する調査ならびに学校に対する質問紙について質問紙の回答のうち、特徴的な項目を挙げています。また、本市では独自に全小中学生とその保護者を対象にした学習状況等調査を行い、小学校1年生から中学校3年生までの成長過程についての分析も行っています。

- ・ 生活習慣や学習意識に対する調査ならびに学校に対する質問紙について
- ・ 平成23年度学力向上対策学校支援事業（東大阪市）に係る学習状況等調査・保護者調査 第4回アンケートの結果及び分析＜平成24年1月頃実施予定＞

児童生徒質問紙の回答と教科の解答の関連

児童生徒質問紙の回答と平均正答率（小学校：国・算のA・B、中学校：国・数A・B及び英語のそれぞれの調査の平均正答率をさらに平均化したもの）の関連性をクロス集計により分析しています。

- ・ 児童生徒質問紙の回答と教科の解答の関連

生活習慣や学習意識に対する調査ならびに 学校に対する質問紙について

～特徴的な項目結果（質問紙より）～

小学校児童質問紙より

<学校での学習・生活に関すること>

- ・ 解答を文章で書く問題・求め方を書く問題について最後まで努力した児童の割合が大幅に高くなった。
- ・ 学校で実施している放課後学習などは、勉強に役立っていると感じた児童の割合が府の平均よりも高い。
- ・ 「学校のきまりを守っていますか」の質問に肯定的に答える割合は昨年より低くなったが、府平均よりは高い。

<家庭での学習・生活に関すること>

- ・ 普段（月～金）学校の授業以外に1時間以上勉強すると答える児童の割合は府平均より低いが、昨年に比べ高くなった。
- ・ 家で自分で計画を立て学習すると答える児童の割合は年々高くなり、5割を超えた。
- ・ 家で学校の授業の復習をする児童の割合は年々高くなっている。予習・復習をすると答える児童の割合は府平均より少し上回っている。
- ・ 家や図書館で10分間以上読書をしている児童の割合は府平均より低いが昨年に比べ高くなった。また、学校や地域の図書館を週に1回以上利用すると答える割合も昨年より高くなった。
- ・ 普段（月～金）1日に8時間以上睡眠をとると答えた児童の割合は昨年より低くなった。
- ・ 7時より前に起きると答える児童の割合は府平均と比較して低いが、昨年と比べると高くなった。
- ・ 家族と一緒に夕食を食べていると答える児童の割合が年々高くなっている。
- ・ 家の人と学校の出来事について話をしている児童の割合が昨年より高くなった。

<自分自身に関すること>

- ・ 将来の夢や目標を持っていると答える児童は8割半ばで、わずかに大阪府平均を下回っているが、年々増加傾向にある。

中学校生徒質問紙より

<学校での学習に関すること>

- ・ 解答を言葉や式を使って説明する問題に対して、最後まで解答を書こうと努力したと答える生徒は8割程度で、大阪府平均をわずかに下回っているが、昨年度より大幅に高くなっている。
- ・ 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないかと考えると答える生徒は6割程度で、過去4年間を見ると年々高くなり、22年度からは大阪府平均をわずかに上回っている。
- ・ 国語の授業の内容がよくわかると答える生徒は7割半ばで、年々増加傾向にあり、大阪府平均を上回っている。

<家庭での学習・生活に関すること>

- ・ 学校の授業時間以外に、普段（月～金）1日1時間以上勉強すると答える生徒は、7割程度で大阪府平均との差はほとんどない。また、全くしないと答える生徒の割合は平成20年度より年々減少している。
- ・ 家で学校の宿題をしていると答える生徒は7割半ばで、過去5年間を見ると年々高くなり、大阪府平均をわずかに下回っているが、その差は年々小さくなっている。
- ・ 読書が好きと答える生徒は7割半ばで、年々高くなっており、過去5年間も大阪府平均を上回っている。
- ・ 普段（月～金）に午前7時より前に起きると答える生徒は4割程度で、大阪府平均はやや下回っているが、過去5年間年々高くなっている。
- ・ 普段（月～金）2時間以上インターネットをすると答える生徒は2割以上で大阪府とほぼ同じである。また、過去4年間を見ると年々高くなっている。
- ・ 近所の人に会ったときにあいさつをすると答える生徒は9割程度で、大阪府平均をわずかに上回っており、昨年度より大きく伸びている。
- ・ 家の人と学校での出来事について話をしていると答える生徒は8割程度で、年々増加している。過去5年間も大阪府平均をわずかに上回っている。

<自分自身に関すること>

- ・ 自分にはよいところがあると答える生徒の割合は5割半ばであるが、過去4年間で年々高くなり、本年度は大阪府平均をわずかに上回っている。

学校質問紙より

<小中共通>

- ・日本語指導の必要な児童生徒が在籍する学校の割合が小学校で2割弱、中学校で3割を超えており、大阪府平均を大きく上回っている。
- ・全国（大阪府）学力・学習状況調査等の自校の結果について保護者や地域に公表や説明を積極的に行い、それを踏まえた学力向上の取組みについて保護者や地域への働きかけを行っている学校は9割以上で大阪府平均を大きく上回っている。
- ・放課後学習や長期休業中のサポート学習は全小中学校で実施されており、その回数も大阪府の平均を大きく上回っている。
- ・全ての学校で学力向上担当者会議を積極的に開催するなど、学力向上の取組みが組織的に行われている。

<小学校>

- ・授業で「書く活動」や「調べる活動」「話し合う活動」などをよく行っている学校は、大阪府平均を上回っている。
- ・保護者懇談会を年に4回以上実施した学校は8割以上あり、大阪府平均（6割弱）を大きく上回っている。
- ・授業評価を積極的に行っている学校は7割弱で、大阪府の平均を下回っている。

<中学校>

- ・全ての学校で、学習規律（私語をしない、話をしている人のほうを向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守る、など）の維持に努めている。
- ・授業の中で、教員がICT機器（パソコン、提示装置等）を積極的に活用している学校は7割を越え、大阪府の平均を上回っている。
- ・生徒に対して家庭での学習方法についての指導や、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを積極的に行った学校は9割近くあり、大阪府の平均を上回っている。
- ・数学の授業では、実生活における事象との関連を図った指導を積極的に行っている学校は4割強で、大阪府の平均（6割強）を大きく下回っている。

児童生徒質問紙の回答と教科の解答の関連

～教科と生活習慣・学習環境等に関する調査のクロス集計結果より～

各教科の平均点と生活習慣・学習環境等の相関関係を示しています。それぞれの項目を選んだ児童生徒の人数(棒グラフ)と、その項目を選んだ児童生徒の平均正答率(折れ線グラフ)が分かります。なお、小学6年生は2教科4区分(国語A・国語B・算数A・算数B)、中学校3年生は3教科5区分(国語A・国語B・数学A・数学B・英語)を平均しています。

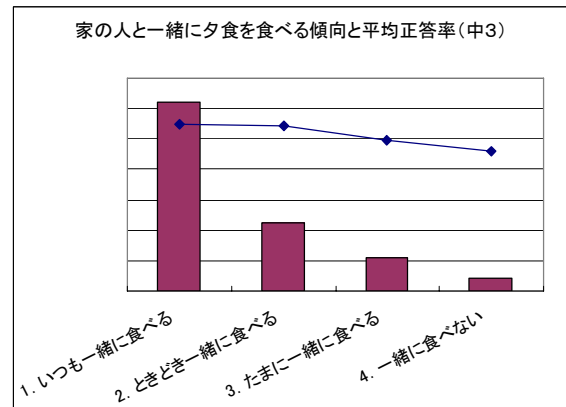
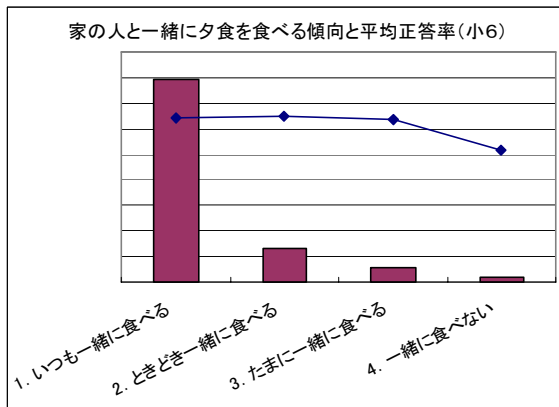
本調査結果分析において用いる「学力」とは、本調査実施要領7.調査結果の取扱い(5)に関する配慮事項にある通り、学力の特定の一部をさすものです。

児童生徒質問紙の回答と教科の解答の関連

日常の生活習慣に関する質問項目

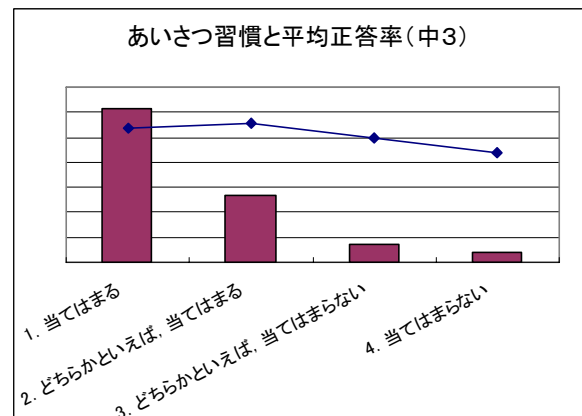
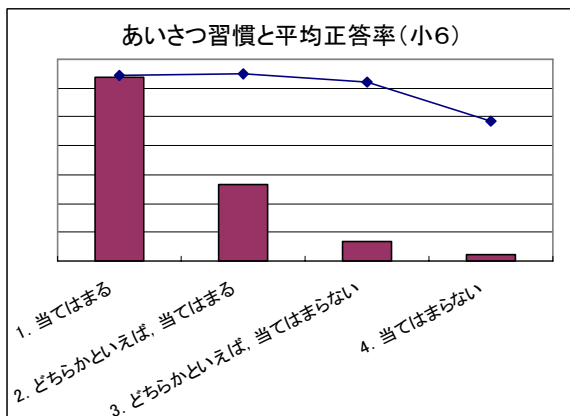
・「朝食を食べる習慣と平均正答率」の関係では、これまでと同様、朝食を食べる習慣のある児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向がある。

1 普段、家の人と一緒に夕食を食べていますか。



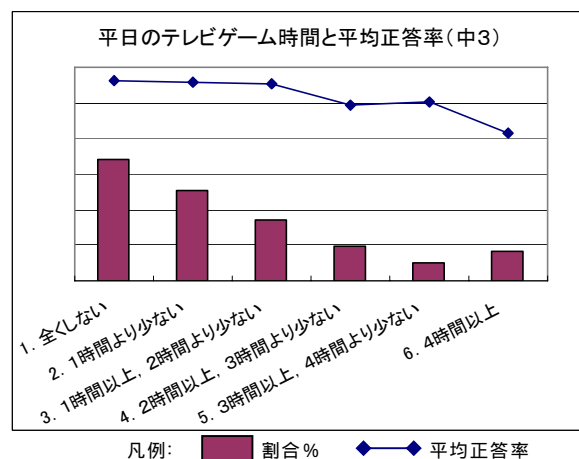
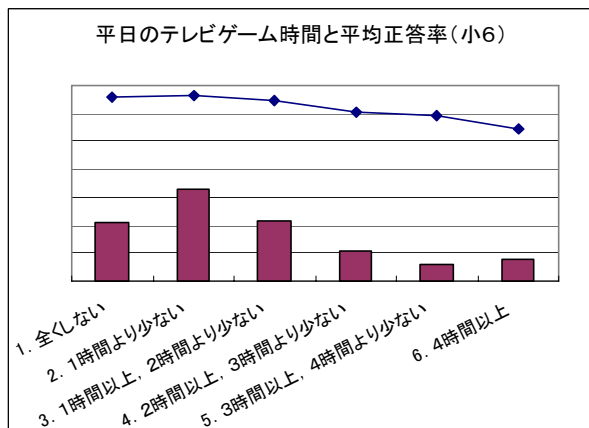
凡例: ■ 割合% ◆◆ 平均正答率

2 近所の人に出会った時、あいさつをしている。

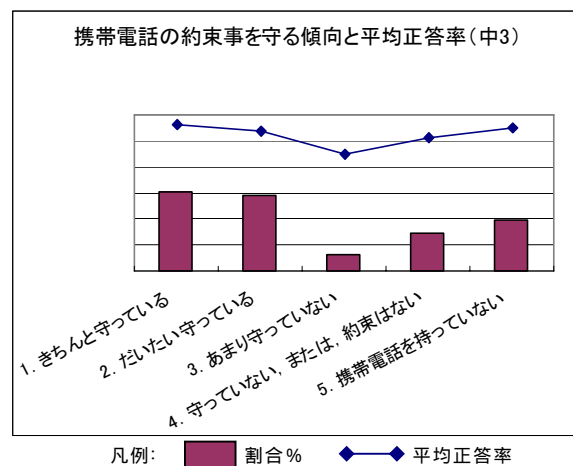
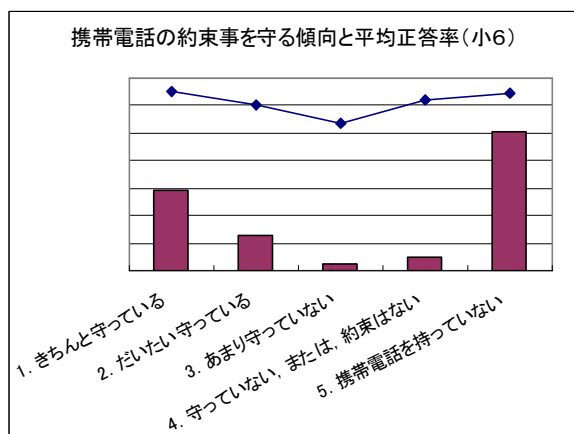


凡例: ■ 割合% ◆◆ 平均正答率

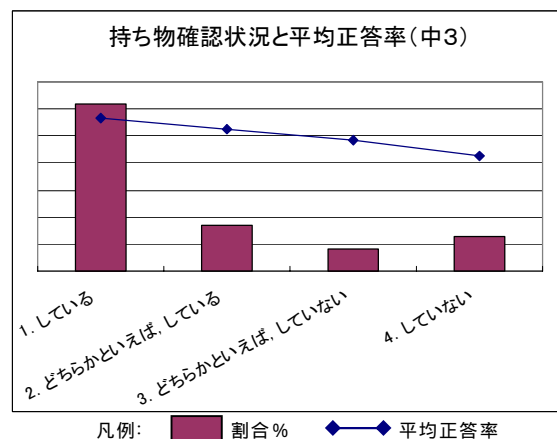
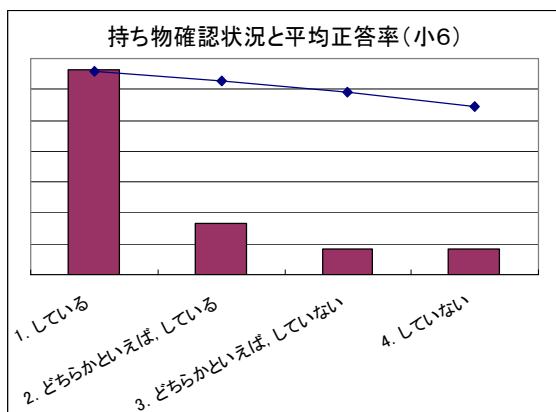
3 普段、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか。



4 携帯電話の使い方と家の人と約束したことを守っていますか。



5 学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめている。

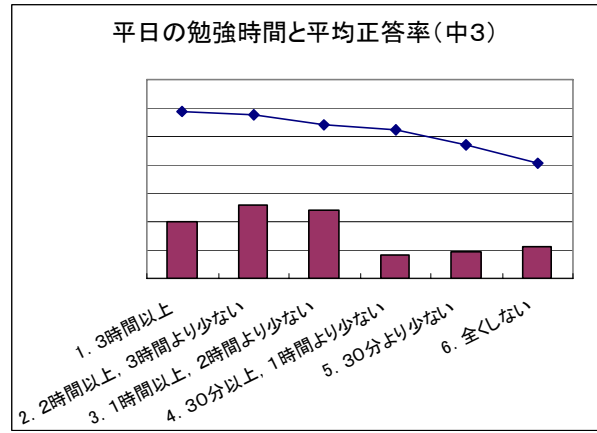
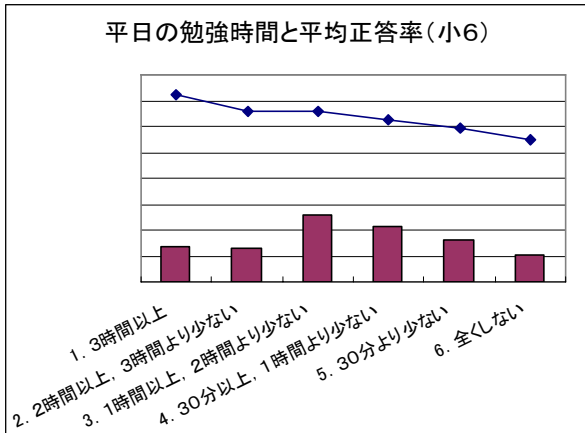


普段、家の人と一緒に夕食を食べる児童生徒ほど平均正答率が高い。
 近所の人に会ったときに、あいさつをする児童生徒ほど平均正答率が高い。
 平日のテレビゲーム時間が短い児童生徒ほど平均正答率が高い。
 携帯電話の使い方の約束をきちんと守る児童生徒と、携帯電話を持っていない児童生徒の平均正答率が高い。
 持ち物の確認をしっかり行う児童生徒ほど平均正答率が高い。

家庭での学習(読書)や家族との関わりに関する質問項目

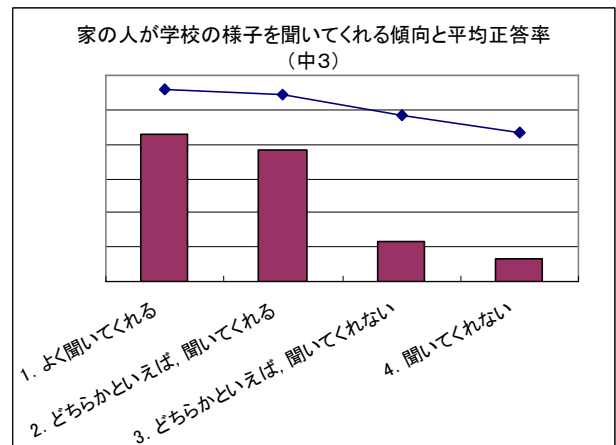
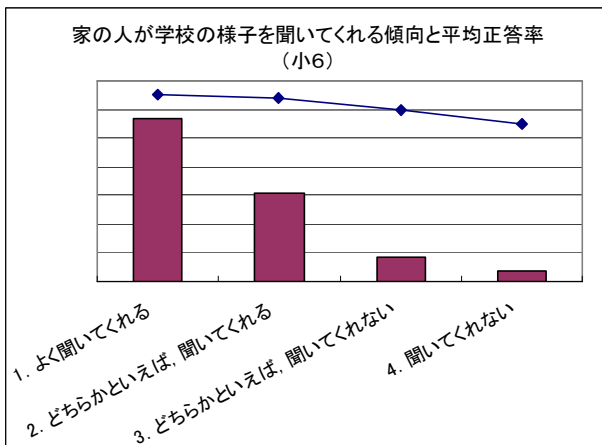
・「家で学校の宿題をする傾向と平均正答率」「家で予習・復習をする傾向と平均正答率」の関係では、これまで同様、宿題や予習・復習をする児童生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。

6 学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。



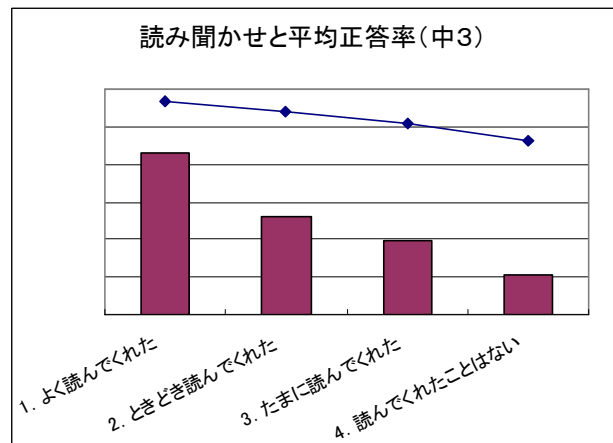
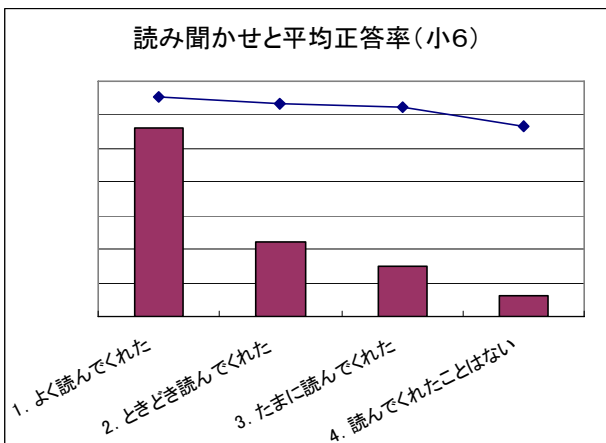
凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

7 あなたの家の人は、学校の様子を聞いてくれますか。



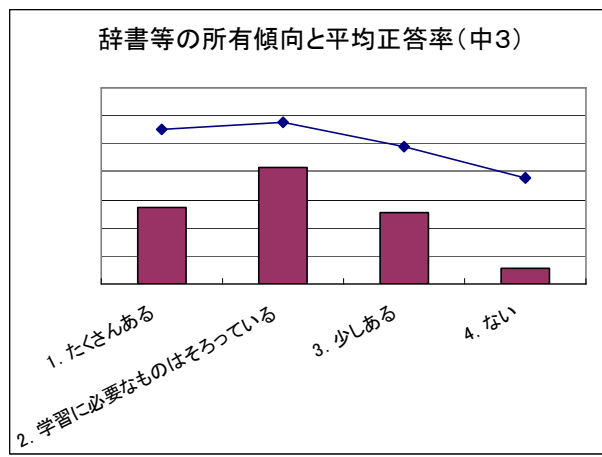
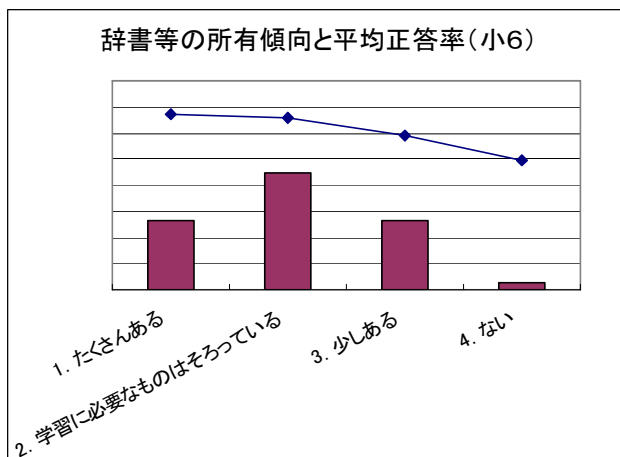
凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

8 あなたの家の人は、小さいころ絵本や本を読んでくれましたか。



凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

9 あなたの家には、参考書や辞書がありますか。



凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

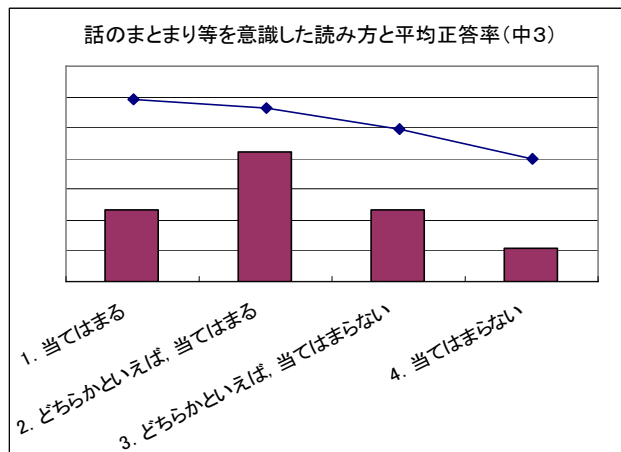
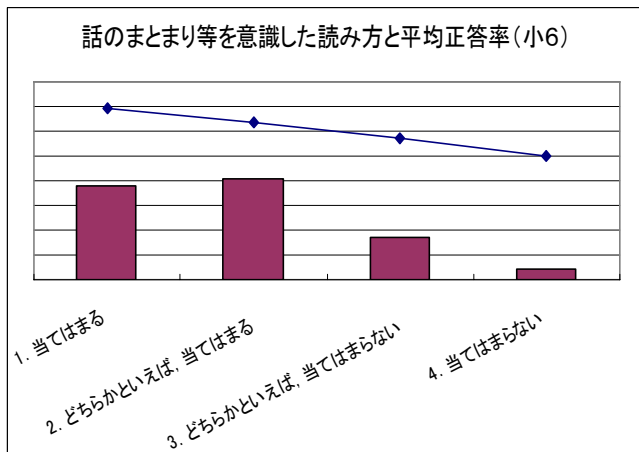
平日家庭で学習する習慣が身につけている児童生徒ほど平均正答率が高い。
 家の人や学校の様子を知っている児童生徒ほど平均正答率が高い。
 家の人に、小さいころ絵本や本を読んでもらった児童生徒ほど平均正答率が高い。

学習に必要な参考書や辞書が家にある児童生徒は、所有していない児童生徒より平均正答率が高い。

学習意欲・姿勢に関する項目

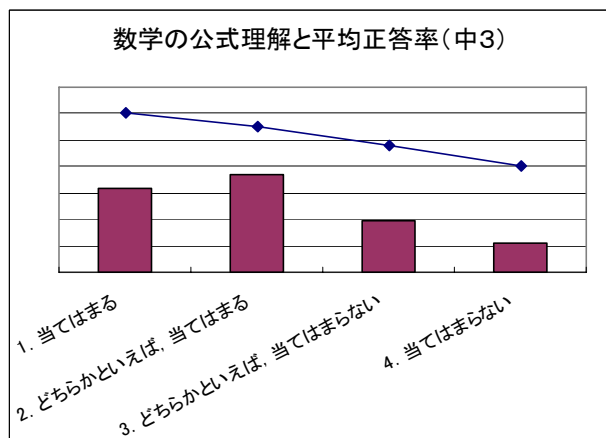
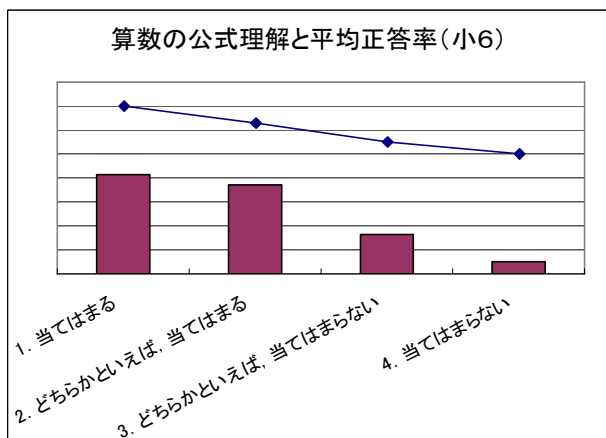
・「授業でノートやプリントをていねいに書く傾向と平均正答率」の関係では、これまで同様、ていねいに書こうとする児童生徒ほど平均正答率が高い。

10 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいる。



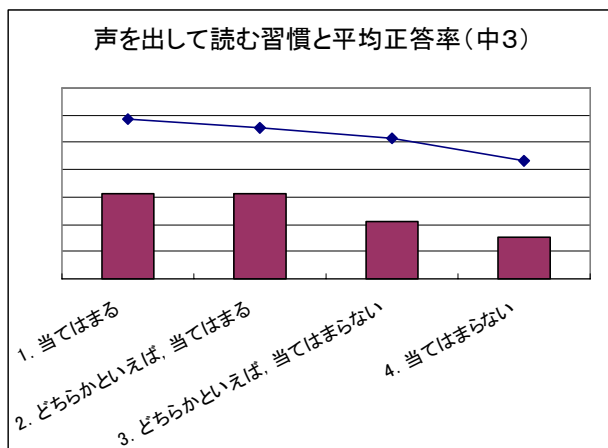
凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

11 算数や数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。



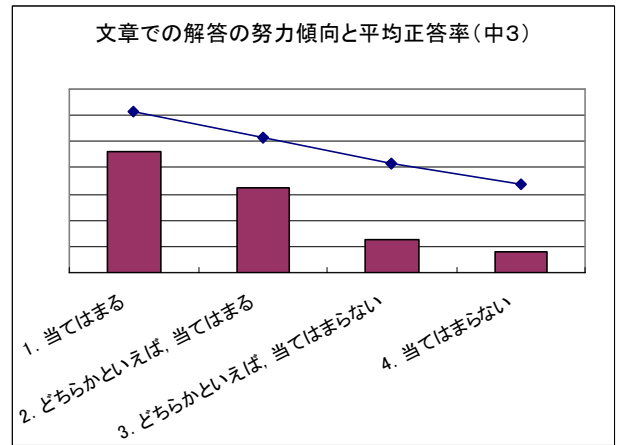
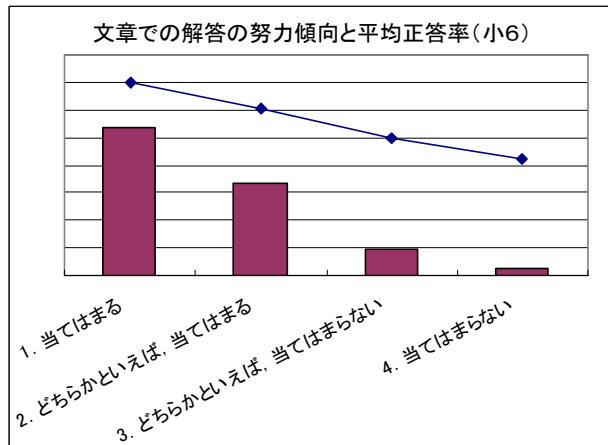
凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

12 英語の授業で教科書の単語や本文を読むとき、声を出して読んでいる。



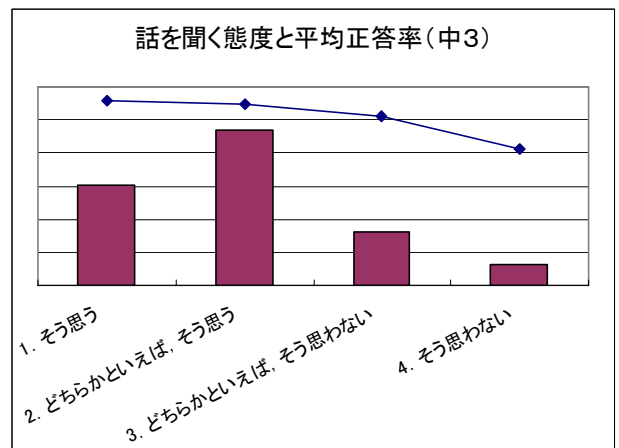
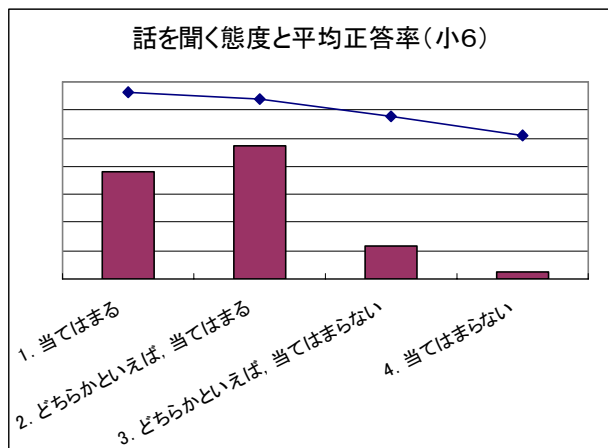
凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

1 3 解答を文章で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した。



凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

1 4 授業や学級会などでは、先生や友達の話をよく聞いている。



凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいる児童生徒ほど平均正答率が高い。

算数や数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている児童生徒ほど平均正答率が高い。

英語の授業で教科書の単語や本文を読むとき、声を出して読んでいる生徒ほど平均正答率が高い。

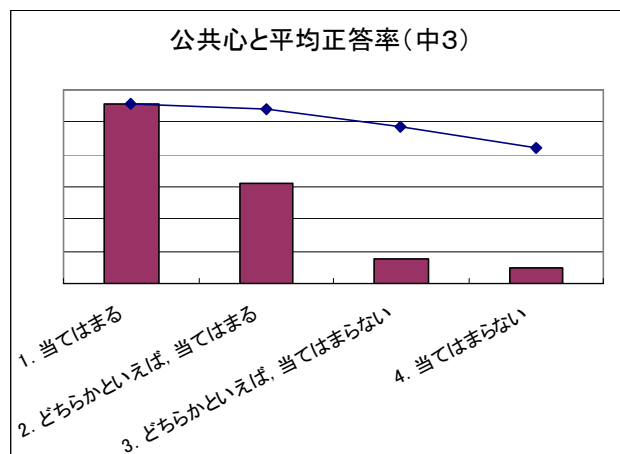
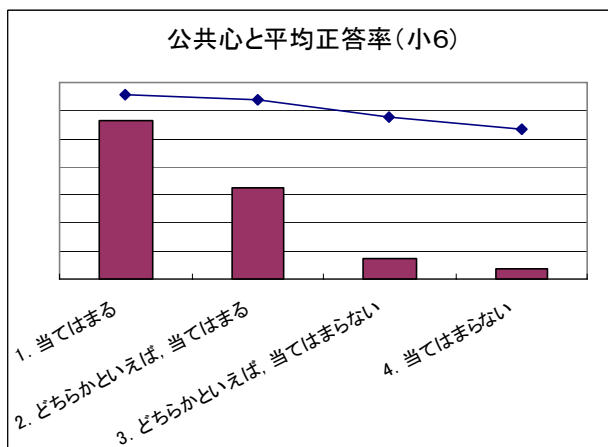
最後まで解答を書こうとする児童生徒ほど平均正答率が高い。

授業や学級会などで、先生や友達の話をよく聞いている児童生徒ほど平均正答率が高い。

自分自身に関する項目（規範意識・自己肯定感・将来展望等）

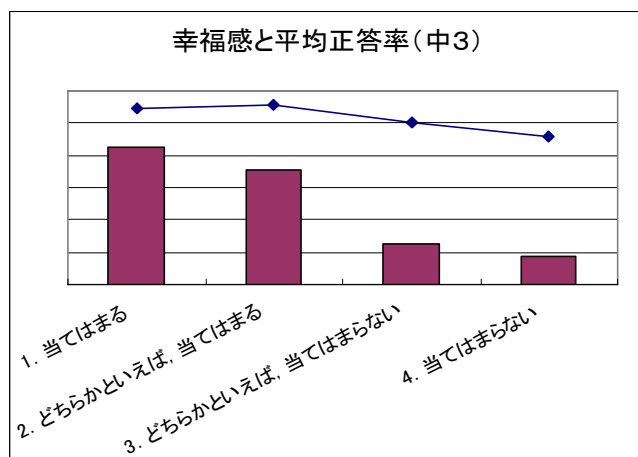
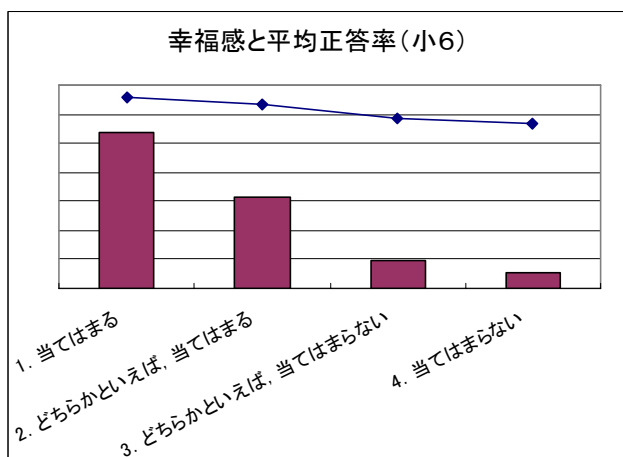
・「達成感享受状況と平均正答率」の関係では、これまで同様、達成感享受の高い児童生徒ほど平均正答率が高い。

15 人の役に立つ人間になりたいと思う。



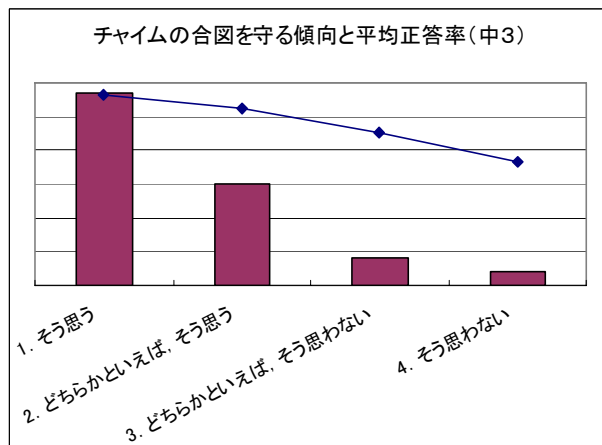
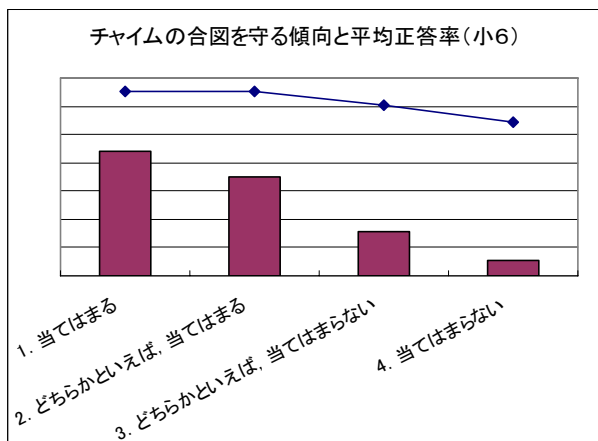
凡例: ■ 割合% ◆◆ 平均正答率

16 自分はとてもしあわせだと思う。



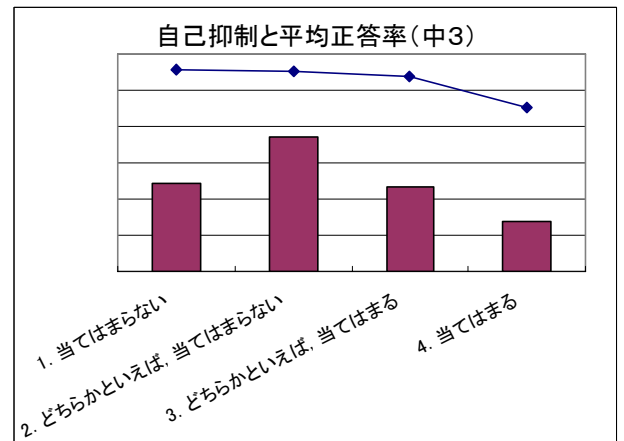
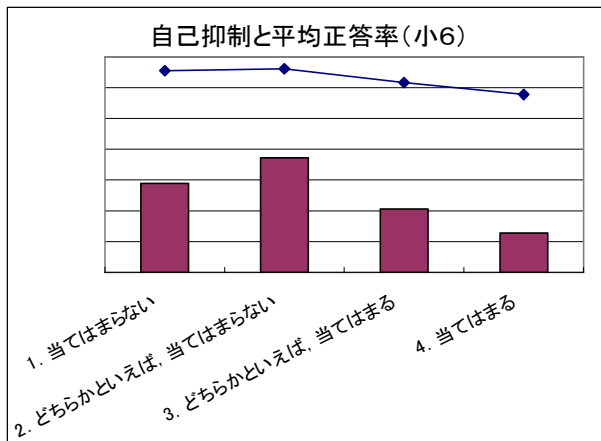
凡例: ■ 割合% ◆◆ 平均正答率

17 チャイムが鳴ったら席につくようにしている。



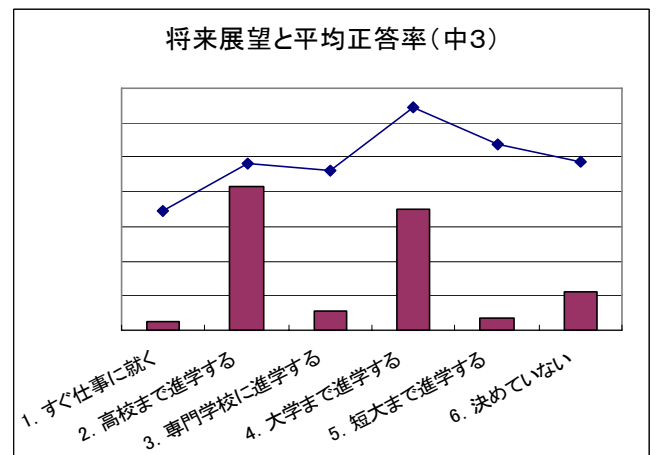
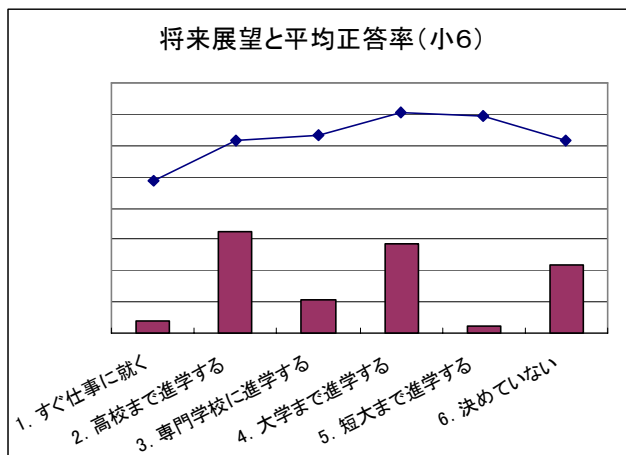
凡例: ■ 割合% ◆◆ 平均正答率

18 欲しいものがあればがまんでできない。



凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

19 中学を卒業したらどうしたいと思っていますか。



凡例: ■ 割合% ◆ 平均正答率

自己肯定感・公共心の高い児童生徒ほど平均正答率が高い。
 規範意識の高い児童生徒、自己抑制のできる児童生徒ほど平均正答率が高い。
 将来、大学進学を考えている児童生徒は最も平均正答率が高い。また、中学卒業後、すぐに仕事に就くことを考えている児童生徒は最も平均正答率が低い。

大阪府学力・学習状況調査分析による傾向と対策

教科の平均正答率は、出題される年の問題の難易度により上下するうえ、本年度は大阪府独自の調査であるため、単純に成果・課題として捉えることには注意が必要である。これに対し、「児童生徒質問紙調査」は調査対象が毎年変わるとはいえ、本市の全児童生徒が感じている傾向を示すものとしては大いに参考とすべきものとする。この理由から、本市では本調査対象の小6・中3に限らず、小中学校全学年を対象とした「学習状況等調査・保護者調査」を平成21年度から実施してきた。今年度も1月頃の実施を予定している。

さて、今回の小6・中3を対象とした質問紙調査の結果であるが、多くの項目で継続的な向上が見られた。特に「授業が好きだ」「授業が分かる」「学校で好きな授業がある」など授業への意識を問う質問に対する肯定的な回答は、ほとんどの項目で大阪府の平均を上回っている。また、中学校では「家で1時間以上勉強する」と答える生徒の割合が増加し、「家で全く勉強しない」と答える生徒の割合が減少するなど、家庭学習習慣が定着した児童生徒が増えつつある。基本的な生活習慣も改善傾向にあり、「朝起きる時間」や「家族と夕食を一緒に食べる」などの項目は年々向上している。このように児童生徒の「自ら学ぶ」姿勢が向上しつつあり、保護者の協力を得て、学習に取り組む様子がうかがえる。これらの要因として、家庭学習定着のために学校が児童生徒や保護者に積極的に働きかけたことや、授業参観や保護者会、学校協議会などを通じて学校の様子を保護者・地域へ積極的に発信するなど、学校・家庭・地域の連携が進んだことが考えられる。本調査における教科の学力の育成には、なお課題が続いているが、学習の基本である「学ぶ意欲」と「学習環境の充実」はゆっくりではあるが確実に向上している。

このように改善の兆しは見られるが、「力」としての定着についてはなお課題が大きい。教科で身につけた知識・技能を日常生活に活かす力（活用力）の育成は、継続的な課題であり、特に算数（数学）で顕著である。この3年間、充実させてきた学校の組織的な取り組みをより推進するとともに、子どもたちの「学ぶ意欲」を確かな学力の定着へとつなぐ授業づくりが求められる。本調査結果分析を受けて、一つ一つの課題に真摯に向き合い、より具体的に積極的な取り組みをさらに推進させていきたい。

<子どもの学力面・生活面での重点化事項（方向性）>

- ・小中全面実施となる新学習指導要領の重点項目である基礎基本とそれを活用する力のバランスがとれた指導
- ・ICT機器をより多様な場面、形態で活用し学習意欲を向上させる工夫
- ・家庭学習習慣の定着のための児童生徒への指導、保護者との連携など、よりきめ細かで継続的な指導
- ・学校と家庭が連携した読書習慣の定着
- ・「早寝・早起き・朝ご飯」など、基本的な生活習慣の確立と継続
- ・きまりや規則を守る規範意識の向上
- ・スモールステップ等による達成感を感じられる指導による自己肯定感の育成

- ・「やりませ！東大阪の学力向上！」
<学力向上対策学校支援事業 説明用リーフレット>
- ・「子どもの生活リズム向上に向けて」
<基本的な生活習慣の確立 呼びかけリーフレット>



求められる「生きる力」とは、

平成 20 年 3 月、新しい幼稚園教育要領、小中学校学習指導要領、平成 21 年 3 月には高等学校学習指導要領が告示され、平成 21 年度からこの新教育課程に示された教育課程を軸に、段階的に新たな実践が行われています。しかし、その確たる理念は教育基本法に基づく「生きる力」であり、その主な 3 要素としての「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の育成をめざすことは前回から引き継がれました。

< 新しい教育基本法 >

第 1 条（教育の目的）

「人格の完成」「国家・社会の形成者として心身ともに健康な国民の育成」など

第 2 条（教育の目標）

「豊かな情操と道徳心」「自律の精神」「職業・生活との関連の重視」「公共の精神」など

第 10～13 条（家庭教育、幼児期の教育、学校・家庭・地域の連携協力）

- ・教育は学校だけで行われるものではありません。家庭はすべての教育の出発点であり、地域社会の果たす役割も重要です。また、幼児期の教育や社会教育を振興していくことが大切です。
- ・学校・家庭・地域の三者が、それぞれの役割と責任を自覚し、お互いに協力し合うことが求められています。

< 新しい学習指導要領（教育要領）等の基本的な考え方 >

1. 教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成すること。
2. 「確かな学力」の要素となる、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成をバランスよく行うこと。
3. 道徳教育や体育などの充実による「豊かな心」と「健やかな身体」を育成すること。

【参 考】

- ・文部科学省ホームページ「新しい学習指導要領」

アドレス http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/index.htm



東大阪市が実施している取組み

二期制

本市は平成 17 年度より小中学校において二期制を実施しています。二期制により授業時数の増加や、長期休業中を活かした学習補充の実施、各学校における授業研究会などが増えてきています。

学力向上対策学校支援事業

平成 20 年度よりスタートし、平成 21 年度に大幅に拡充された事業です。全小中学校に学力向上支援コーディネーターを位置づけ、個々の学校においては学力向上を目的とした推進役として、また東大阪市全体では他校との連携役として、組織的な改革による学力向上をめざしています。そのために、各校には学力向上支援室を設置したり、学力向上支援専門嘱託や外部支援員を配置しています。

オンリーワンスクール推進事業

幼稚園・小・中・高等学校における教育改革の進展を図り、特色ある学校園づくり及び教育効果を循環させるしくみづくりを目的として行われる事業で、毎年度、各学校園が取組みを発表することにより、市全体の教育活動が活性化されています。

「朝の読書」活動

児童生徒が朝に登校し、1 時間目の授業までの 10 分間程度を利用して小中学校で実施しています。基本的に読書で使用する本は児童生徒が自分で持ってきます。読書の冊数が年間 1 人 100 冊程度に達することもあります。

校種間連携の取組み

中学校区において幼・小・中・高連携のもと「めざす子ども像」と教育課題の共有を図り、授業づくりと指導の系統化に取り組み、中学校区での公開発表を実施しています。

全学校園に学校協議会を設置

平成 20 年度より全学校園に設置しました。委員の方々は校長より委嘱され、校長の求めに応じて学校園の諸課題や学校園運営全般について協議会としての意見や提言を取りまとめます。校長はそれらをもとに学校園運営の改善に取り組みます。

地域教育協議会の取組みの推進

全中学校区に設置され、学校と家庭と地域の連携による総合的な教育力の再構築をめざす教育コミュニティーづくりの中核となる推進組織です。「学校支援」を目的とした地域や家庭への意識啓発や家庭教育の支援、子どもの諸活動や健全育成の取組みに係る企画・実施、連絡調整（コーディネーター）などの活動を行います。

愛ガード運動推進事業

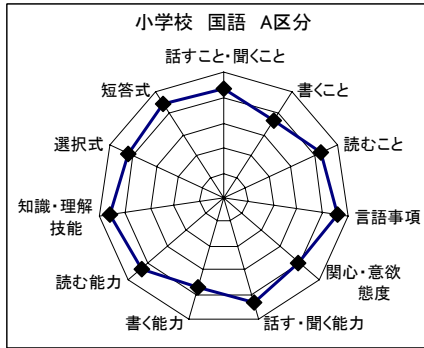
全小学校区における自治会組織が中心となり、子どもの登下校時の安全を守るため、小学校周辺で実施するボランティアです。小学校校区を通り登校する中学生への声かけや、学校園への情報提供も行っています。

A区分問題（主として「知識」に関する問題）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

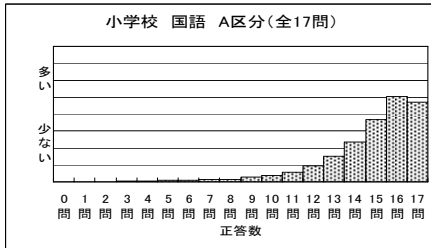
◎基礎基本の定着に成果！「書く能力」に課題



- 今回の出題内容において、「知識・理解・技能」「言語事項」の項目で高い値を示している。
- 「書く能力」「書くこと」を表す値が低く、課題がある。
- 「書く能力」の中で、相手や目的に応じて、ていねいな表現に書きなおす問題で正答率が低く、課題がみられる。

正答数分布

◎正答数分布は右上がりのライン



- 正答数16問（全17問）を頂点とした右上がりのラインを描いている。

全体の傾向

- 昨年度に比べ、正答数の多い児童が増えた。
- 無答率 東大阪市：1.4%（昨年3.5%）
大阪府：1.3%（昨年2.8%）
- 平均正答率は86.7%である。
（昨年度より6.9ポイント上昇）

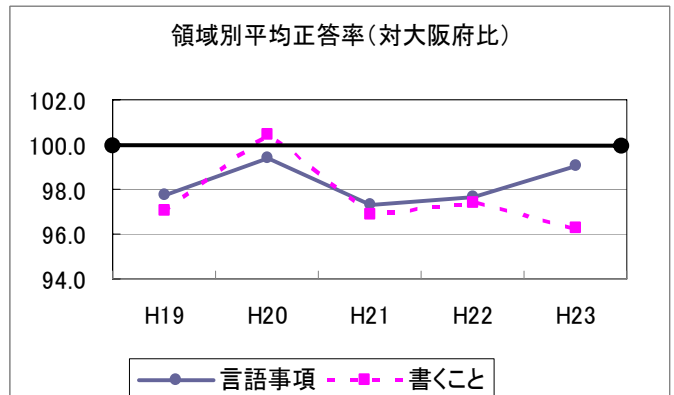
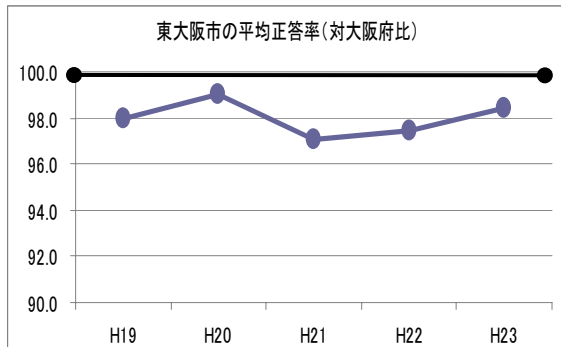
5年間の推移

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

（昨年度までは全国学力・学習状況調査、本年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である）

◎本年度は昨年度よりも上昇

- 平均正答率の対大阪府比は、平成21年度より年々上昇し、本年度は98.4ポイントとなった。



- 領域別にみると、「言語事項」「言語についての知識・理解・技能」において、平成21年から年々上昇傾向にあり、本年は対大阪府比で99ポイントを越えた。国語科の指導方法の工夫や反復学習の成果であると推測される。

- 「書くこと」については、平均正答率の対大阪府比は下降傾向にあり、全ての教科で「書く」指導の充実が求められる。

A 区分問題（主として「知識」に関する問題）にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

- 相手や目的に応じて、適した表現に書きなおすことに課題がある。
- 文脈に即して適切な漢字を書くことに課題がある。

☆言語活動の充実！ ☆基礎基本の徹底と読書活動！

設問から見えてくる課題と対策

設問の意図と児童の実態をもとに、必ず身に付けておくことが望ましい知識・技能を習熟させるためにできることを学校・家庭に提案します。

提案 ①

問題例：（「電話のやりとり」を読んだ後の設問）
 図書館の人「はい、まるやま図書館です。」
 石田さん 「わたしは、石田たけしと申します。
 昨日、『注文の多い料理店』という
 本の予約をしたけど、いつごろ借り
 られるかを教えてください。」

◎ 「したけど」をていねいな表現になおしましょう。

正答例 したのですが

- 府の平均正答率と比べて2.8ポイント低く、他の問題に比べるとややその差が大きい。

学校で取り組むこと

- 平素の授業の中で、ペア学習やグループ学習等、話す・聞く活動の時間をふやす。
- 異年齢集団の取り組みや、地域の方々との出会いの場をふやし、相手や目的に応じて多様な言語活動をする機会をふやす。

家庭にお願いしたいこと

- ◆ 子どもとともに、地域の方や年長者への礼儀・敬語・挨拶等を大切に、相手や場面に応じた丁寧な言葉遣いや話し方をする。
- ◆ 新聞やテレビなどのメディアの情報の中身や表現の仕方などについて話し合う機会をふやす。

提案 ②

問題例：複数の同音意義の漢字の中から適切なものを選択する。

天テキ

- (1) 「テキ確」な判断で事故を起こさずにすんだ。
- (2) 汽車の「汽テキ」が遠くからひびいてきた。
- (3) 図書館は「快テキ」なので勉強がはかどった。
- (4) わたしたちのチームは「強テキ」に勝った。

正答 ④

- 他の設問の大阪府平均正答率と比べて、差はほとんどない。しかし、短答式で「漢字を正しく読む・正しく書く」設問の正答率と比べるとその差が大きい。

学校で取り組むこと

- これまでの反復学習の成果を生かし、さらに学習指導ツールなどを利用した基礎基本の習熟を徹底する。
- 新出漢字の練習時に、熟語さがしや短文づくり等を充実する。

家庭にお願いしたいこと

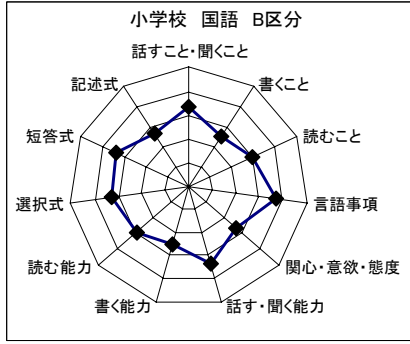
- ◆ 基礎基本のさらなる充実のために宿題だけでなく、自分の苦手なことを集中して取り組む時間を設けるとともにがんばったことをほめる。
- ◆ 子どもとともに、新聞を読んだり、読書をしたりする時間をつくり活字にふれる機会をふやす。

B区分問題（主として「活用」に関する問題）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善するなどの力の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

◎「記述式」「書く能力」に課題

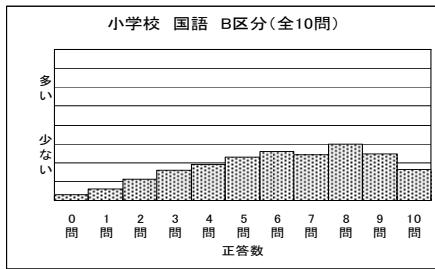


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- 今回の出題内容においては、「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」の項目が、他の項目に比べ良好な値を示している。
- A区分の「言語事項」では比較的良好な結果を示していたが、B区分で「言語事項」はチャート図の中で、最も高い値を示している。
- 出題形式において「記述式」が「選択式」「短答式」に比べ低い値を示し、これまで同様、記述式の問題に対する課題がみられる。
- 「関心・意欲・態度」が他の項目に比べ、低い値を示している。

正答数分布

◎正答数は全体的に分散



- 正答数8問（全10問）をピークとする右よりのなだらかな曲線を描いている。

全体の傾向

- 大阪府の結果と同様に、記述式の問題において正答率が低い。
- 無答率 東大阪市:5.0%(昨年6.7%)
大阪府:4.3%(昨年:5.0%)
- 平均正答率は61.1%である。
(昨年に比べ9.7ポイント下降)

5年間の推移

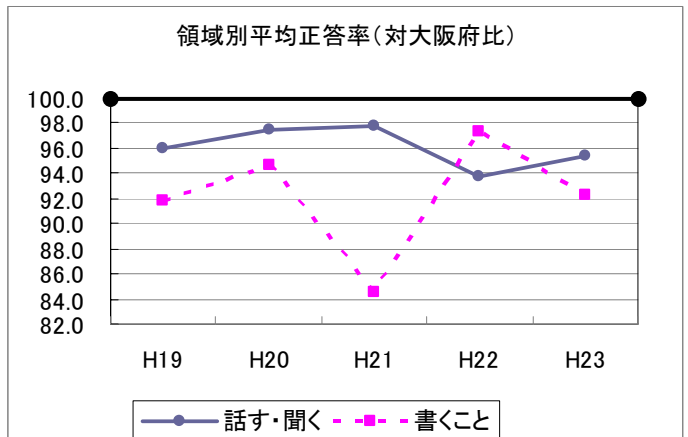
大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

(昨年度までは全国学力・学習状況調査、本年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である)

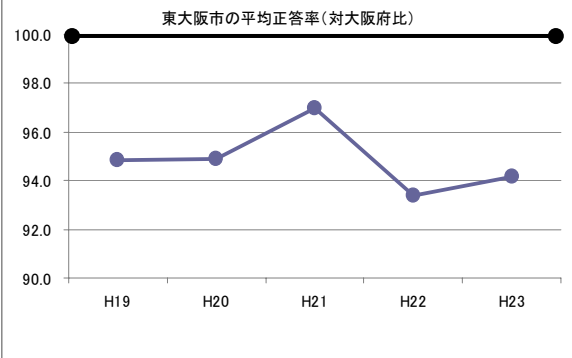
◎依然、活用力には課題

「話す・聞く能力」での成果も

- 活用力については依然課題が大きい。平成19年の対大阪府比は94.8ポイント、平成20年は94.9ポイント、平成21年は97.0ポイント、平成22年は93.4ポイント、平成23年は94.1ポイントである。学校生活や家庭生活の中で、様々な方法で活用力を育成する必要がある。



- 領域別にみると、「話すこと・聞くこと」の平均正答率（対大阪府比）は、95.4ポイント（平成23年度）と他の領域に比べ成果がみられる。しかし「書くこと」の平均正答率（対大阪府比）は低く、理由を明確にしたり、条件に合わせて説明することなどにおいて課題が大きい。



B区分問題（主として「活用」に関する問題）にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

- 目的や意図に応じて、工夫して話す・書くことに課題がある。
- 思ったことや考えたことを、さまざまな条件に合わせて書くことに課題がある。

☆平素からさまざまな機会に、話す・聞く活動を！

設問から見えてくる課題と対策

設問の意図と児童の実態をもとに、習得した知識・技能等を日常生活のさまざまな場面で生きた力として活用できる力を養うために、学校・家庭ができることを提案します。

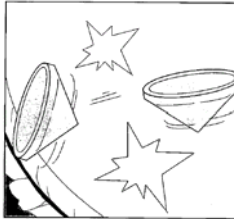
提案 ①

問題例（子どもの「昔遊びクラブ」の発表原稿より）

発表原稿で見せる絵を2枚用意し、どちらがよいか、あなたに相談しました。あなたはどちらがよいと思いますか。

【正答の条件】

- ・発表原稿の内容にふさわしい絵をえらび、その理由を書くこと。
- ・絵を効果的に提示すること。
- ・六十字以上、九十字以内で書くこと。
- 大阪府平均正答率に比べ4.4ポイント低く、他の設問に比べてその差が大きい。



学校で取り組むこと

- 日々の授業の中で、「なぜ、そのように考えたのか」等、理由を明確にした話し合い活動をふやす。
- 記録、説明、批評、論述、討論等、言語活動を充実させた学習を一層推進する。

家庭にお願いしたいこと

- ◆子どもと読書する環境をつくり、読んだ本のあらすじや感想について話し合う時間をもつ。また図書館などの公共施設も積極的に活用する。
- ◆電子メールだけでなく、手紙や葉書などを書く機会をふやし、いろいろな関係の相手と文字・文章を介して触れ合う機会をもつ。

提案 ②

問題例（「下水」に関する説明的な文章から）

『現在、「おでい」はいろいろな商品に生まれ変わっています。』とありますが、あなたは「おでい」をどのように再利用するのがよいと考えますか。次の条件に合わせて、あなたの意見を書きましょう。

【正答の条件】

- ・表に示された再利用の商品から二つ選ぶこと。
- ・選んだ商品の使いみちにふれて、選んだ理由を書くこと。
- 大阪府平均正答率に比べ3ポイント低く、誤答率は大阪府平均に比べ2.6ポイント高い。

肥料	セメント	炭	再利用の商品
長崎県	京都府	東京都	都道府県
野菜や花のさいばい	道路やトンネルの工事	火力発電の燃料	使いみち

学校で取り組むこと

- 授業の中で仲間の発表を聞きながら、メモをとる、記録する等、さまざまな条件に合わせて書く学習を進める。また、それらに自分の考えたことも取り入れながら、まとめる時間をふやす。
- ペア学習やグループ学習等お互いの意見を聞き合う場面をもち、自分の考えをさらに深め、それを発表する時間をふやす。

家庭にお願いしたいこと

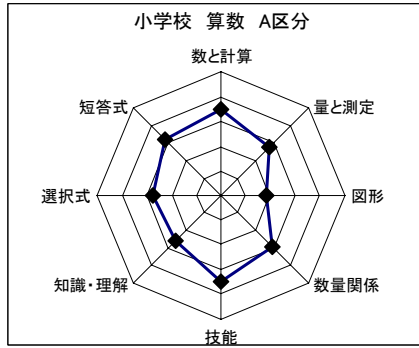
- ◆家庭生活の中で、学校生活や地域行事などについて話し合う場面をふやし、子どもの思いや考えを聞く。
- ◆子どもと話をする時、自分の考えや理由を明確にした話し合いをしながら、会話を楽しむ。

A 区分問題 (主として「知識」に関する問題)

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

◎「図形」「量と測定」「数量関係」領域に課題

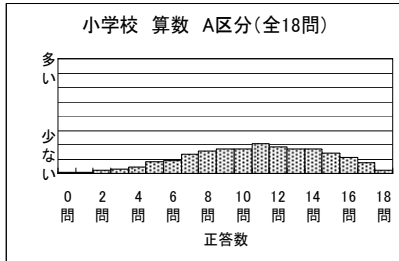


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- 「数と計算」領域では、整数・小数・分数を含む加減乗除の計算はほぼ定着している。整数の性質についても、概ね理解している。
- 「図形」「量と測定」「数量関係」領域では、円周率の意味や角柱の理解、単位量あたりでの比較、割合の理解にやや課題がある。
- 平成20年度に課題となっていた三角形の底辺と高さの関係の理解はほぼ改善されている。

正答数分布

◎正答数分布の様子は、昨年度と同傾向



- 11問(全18問)を頂点とした低い山型を描いている。
- 13~16問正答した割合は全体の約30%である。

全体の傾向

- 表やグラフが含まれた長い文章の設問では、無答率が高い。
- 無答率 東大阪市:3.6%(昨年3.4%)
大阪府:2.9%(昨年2.6%)
- 平均正答率は59.4%
(昨年よりポイント11.7ポイント下降)

5年間の推移

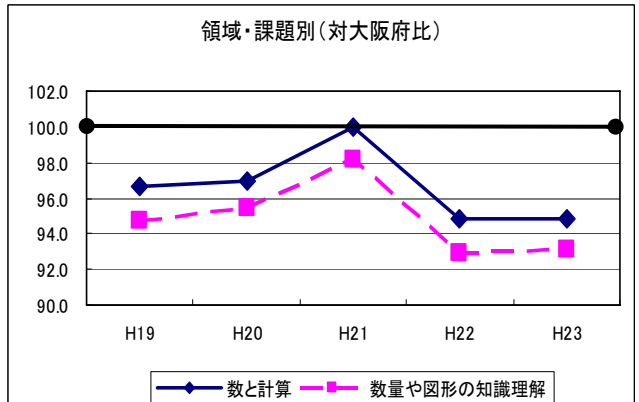
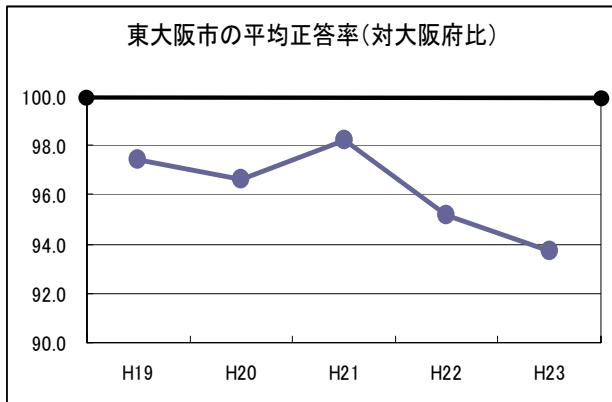
大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

(昨年度までは全国学力・学習状況調査、本年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である)

◎基礎・基本の確実な定着に向けて引き続き取り組む

- 「数と計算」領域で成果が見られるものの、全体の対大阪府比は、昨年度から1.5ポイント減となった。

- 領域・観点別の5年間の推移は、「数と計算」領域と「数量や図形についての知識・理解」で対大阪府比はやや上昇している。



A区分問題（主として「知識」に関する問題）にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

- 立体図形の構成要素や辺・面の位置関係の理解が十分でない。
- 二次元表や円グラフ、帯グラフの意味を理解し活用することに課題がある。

☆算数的活動を通して基礎的基本的な知識・技能を身につける！

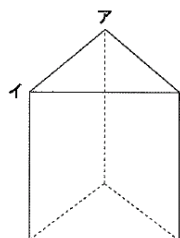
設問から見えてくる課題と対策

設問の意図と児童の実態をもとに、必ず身に付けておくことが望ましい知識・技能を習熟させるためにできることを学校・家庭に提案します。

提案 ①

問題例

下の図のように、底面が正三角形で側面が正方形になっている立体があります。アイと長さが同じ辺の数は、アイもふくめて何本あるでしょう。



正答 9本

- 正答率は本市15.6%、府16.7%でいずれも正答率が低い。底面や側面の意味や関係の理解が十分でない。

学校で取り組むこと

- 角柱や円柱を観察したり、見取図や展開図をかいたりする活動を通して理解を深め、空間についての感覚を豊かにする。
- 展開図と相互に関連付けた指導で論理的な思考力を育てる。
- 中学校数学では小学校での学習を基礎に空間図形の理解を一層深めることから小中での連携した指導を行う。

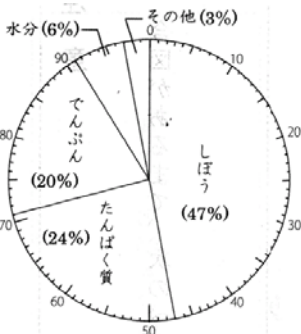
家庭にお願いしたいこと

- ◆遊びや生活の中から算数の学習と関連付けられるものを探し、好奇心を引き出す。
- ◆未知の世界に興味を抱いたり、数や形の不思議さに目を奪われたり、そのような子どもの感性を豊かに育む。

提案 ②

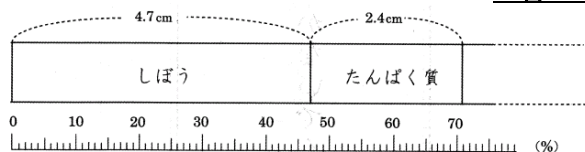
問題例

次のグラフはピーナッツの成分の重さが全体の重さに占める割合を円グラフに表したものです。



また、下のグラフは上の円グラフをもとに帯グラフに表そうとしたものです。このとき帯グラフの「しぼう」のしめる割合の長さは4.7cm、「たんぱく質」のしめる割合の長さは2.4cmになりました。帯グラフ全体の長さは何cmになるか求めましょう。

正答 10cm



- 正答率は本市37.4%、府42.97%で府と約5ポイントの開きがある。割合の意味理解が課題である。

学校で取り組むこと

- 円グラフや帯グラフは百分率と関連させて指導する。児童が目的に応じて表やグラフを選び、表したり読み取ったりする算数的活動を充実する。
- 資料の特徴を説明し伝え合う場面を設定し、算数を学ぶ意義や楽しさを実感できる活動をふやす。
- 中学校数学や理科、社会科とのつながりを意識した授業づくり・授業改善を行い、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

家庭にお願いしたいこと

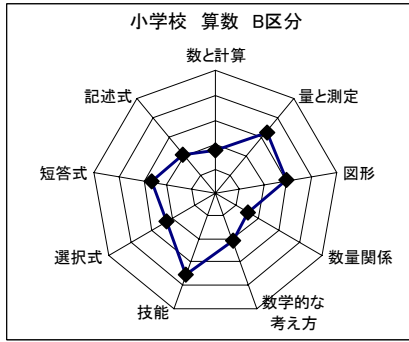
- ◆低学年の時期から、時間をきめて自主的に学習に向かう、望ましい学習習慣を身につけさせる。
- ◆子どものよいところを認め、努力しているところやできたことを充分ほめて、やる気をはぐくむ。

B区分問題（主として「活用」に関する問題）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善するなどの力の一部について、習熟度を測ることを意図した問題

領域・観点・出題形式別

◎論理的に考え、数学的に表現することに課題

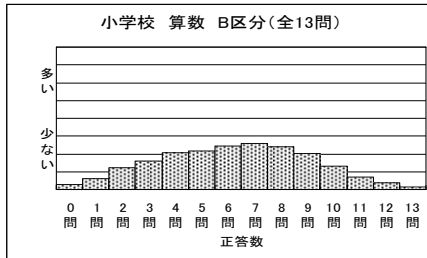


一番外の枠は、10割の正答率ライン

- 「技能」領域について、計算・処理、作図はほぼできている。
- 「量と測定」領域では、体積の単位の意味や数量の比べ方について概ね理解している。
- 日常の事象を数学的に解釈し、数量の関係を理解し表現する設問では正答率が低い。活用力に課題が見られる。
- 根拠を述べて説明するという記述式の設問は、正答率が40.4%であり無答率が高い。

正答数分布

◎やや左よりの分布 活用力に課題



- 7問を頂点としたやや左よりの山型を描いている。
- 0～5問は全体の4割を占め、府に比べ約5ポイント高い。

全体の傾向

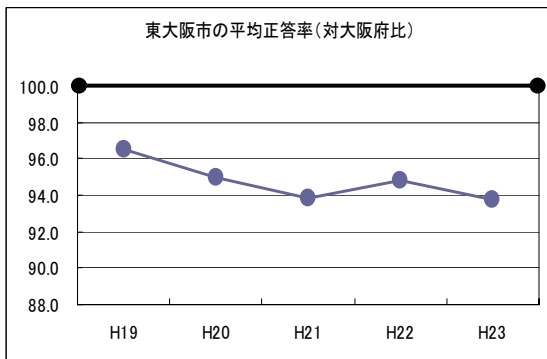
- 無答率 東大阪市:3.7%(昨年8.4%)
大阪府:3.0%(昨年7.0%)
- 平均正答率は、48.0%(昨年より2.4ポイント上昇)

5年間の推移

大阪府の平均正答率を100とした場合の本市平均正答率の割合

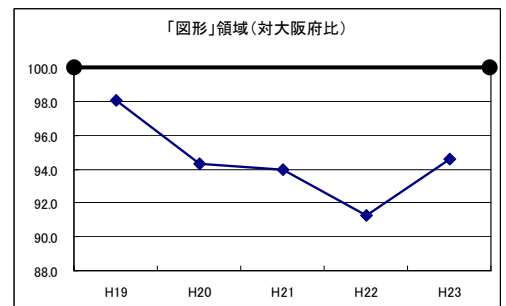
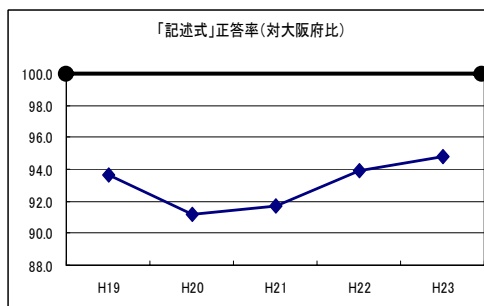
(昨年度までは全国学力・学習状況調査、本年度は大阪府学力・学習状況調査の結果である)

◎「活用力」に課題あり。記述式で解答する設問で正答率は12.6%上昇！



- 領域・観点別の推移は、昨年に比べ「図形」領域で3.4%上昇した。
- 「数学的な考え方」は、昨年に比べ、5%上昇。対大阪府比は2ポイント上がる。全体では依然、課題は大きいものの筋道を立てて考え表現する力が少しずつ向上していると考えられる。今後継続した指導の取り組みを進めたい。
- 「図形」領域の正答率は、対大阪府比で3.4ポイント上昇。正三角形をいくつか組み合わせる作図する設問も良好である。

- 記述式の正答率は約4割で高いとはいえないが、昨年に比べると12.6%上昇、対大阪府比で0.8ポイント上昇した。



B区分問題（主として「活用」に関する問題）にみる特徴的な課題と対策

【特徴的な課題】

- 問題解決場面において見通しをもち筋道を立てて考え、数学的に表現することに課題が見られる。
- 数量の関係や変化を割合という観点で考察することに課題がある。

☆考える力を育てる授業、説明し伝え合う活動を！

設問から見えてくる課題と対策

設問の意図と児童の実態をもとに、習得した知識・技能等を日常生活のさまざまな場面で生きた力として活用できる力を養うために、学校・家庭ができることを提案します。

提案 ①

問題例

1 バラ3本を1つにまとめて花束を作りたいと思います。赤いバラが12本、白いバラが15本あるとき、作れる花束の数を求める式を、みつきさんとかおるさんは次のように考えました。



式
 $12 \div 3 + 15 \div 3$

考え方

赤いバラで作れる花束の数と白いバラで作れる花束の数をまず計算してから、両方の花束の数をたします。



式
 $(12 + 15) \div 3$

考え方

正答例まず赤と白のバラを加えてバラ全体の本数を求めます。次に、バラ全体の本数を3でわって花束の数を求めます。

(1) かおるさんは、いくつ花束を作れるかをどのように考えましたか。かおるさんが作った式を見て、考え方を説明しましょう。

●市の正答率は49.6%府は49.7%。記述式形式では昨年より良くなっているが課題はまだ残されている。

学校で取り組むこと

- 数量の関係を式に表したり、式から場面や関係を読み取ったりするなど式のもつ意味を考える時間を大切にする。
- 式から読み取れることをノートに記述し、互いの考えを伝え合い、発展させるという言語活動を充実させる。

家庭にお願いしたいこと

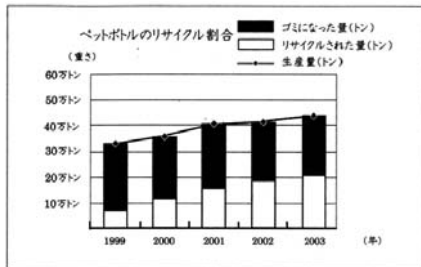
- ◆日常のコミュニケーションを大切にする。対話を通して自分の思いを伝えたり、根拠や理由を述べて説明する力を養う。
- ◆子どもの考えを引き出す、よき聞き手になる。

提案 ②

問題例

(2) 「生産量」に対する「ゴミになった量」の割合の変化について、このグラフからどのようなことがわかりますか。次のア～ウのうち、1つ選んでその記号をかきましょう。また、その記号を選んだ理由をかきましょう。

- ア 「ゴミになった量」の割合は増加している。
- イ 「ゴミになった量」の割合は変化していない。
- ウ 「ゴミになった量」の割合は減少している。



●市の正答率は4.3%府は6.1%、市の無答率は2.8%で府とほぼ同じ。活用力に大きな課題がある。

選択肢正答：ウ

理由(例)：ペットボトルの生産量は増加しているが、ゴミになったペットボトルの量はあまり変化していない。ゴミになったペットボトルの量の割合は(ゴミになった量) ÷ (生産量)である。このため、割合は減少している。

学校で取り組むこと

- 既習事項を活用する場面では、個に応じて内容を学び直し、基礎的基本的な知識・技能の定着を図る。
- 問題解決の過程で、児童が見通しを持ち筋道を立てて考え、数、式、図、表、グラフなどに表す授業づくりを行う。表現したことを評価し、より洗練されたものへ発展できるよう指導の充実を図る。

家庭にお願いしたいこと

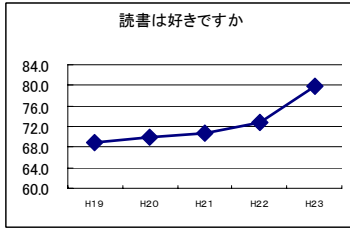
- ◆わからなかったり、間違ったりした部分をそのまましておかず、どこでつまづいたのかをふりかえらせる。
- ◆日常生活でよく用いられている百分率や歩合、表やグラフなどに関心を持ち、これからの時代に求められる情報活用能力を育てる。

児童質問紙調査（教科に関する項目）

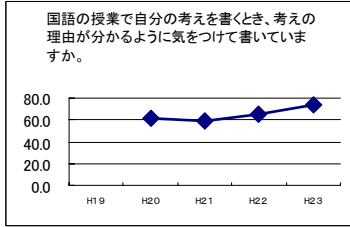
児童に対して行った質問紙調査より

「国語」への意識

◎「読書が好き」と回答した割合が年々増加

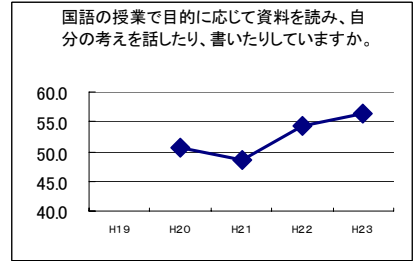


●「読書は好きですか」で、肯定的な意見は、年々上昇。（今年度は79.8%）



●「国語の授業で自分の考えを書きとき、考えの理由がわかるように気をつけて書いていますか」では、肯定的な回答は同じく上昇。

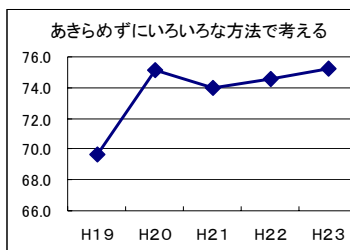
読書への関心がさらに高まる！
「言語活動の充実」を意識した授業づくりの成果を学力の定着へとつなぐ。



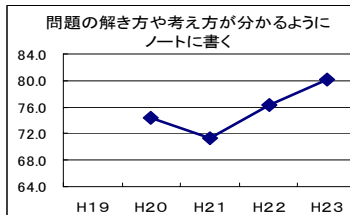
●「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」でも年々上昇。話す・聞く活動の成果がみられる。

「算数」への意識

◎「最後まで書こうと努力した」と回答した割合が増加。学習意欲の向上が見られる。

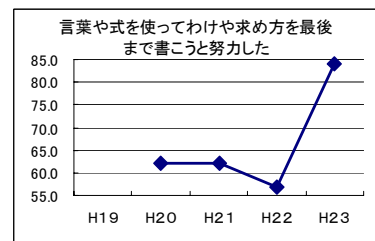


●「算数の問題の解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法で考えますか」で、肯定的な回答は3年連続上昇。



●「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」では、肯定的な回答は80.1%、同じく3年連続して上昇。

以前より学ぶ意欲が向上！
他教科や数学とのつながりを意識させ、学ぶ意義を実感させる。



●「言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題について、最後まで解答を書こうとした」でも、昨年より27.2%上昇。算数への意識の変化が見てとれる。

どの子にも学ぶ楽しさと達成感を！
学校と家庭がつながることで、よいよい子どもの変容を！

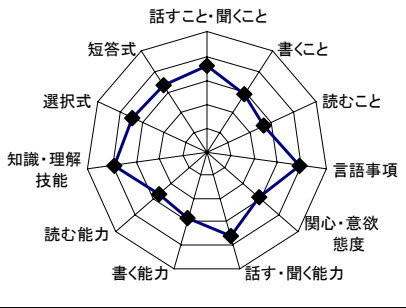
学校で取り組むこと

- 知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力、学習意欲をバランスよく育てる。
- 児童主体の授業展開やICT活用で学習意欲を喚起する。
- ペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、言語活動の充実を図る。
- 一人ひとりの学習状況を評価し、指導形態を工夫するなど、個に応じたきめ細かな指導を行う。
- わかる喜びや自信、達成感や満足感を味わえる授業を行う。

家庭にお願いしたいこと

- 落ち着いた学習環境をつくる。
- 気づいたことや感じたことを話し合う機会をふやす。
- 家族で、新聞を読んだり、読書をしたりすることで活字に親しませるとともに、共通の話題から対話を広げる。
- 苦手なことにも挑戦し努力しようとする態度を大いにほめ、やる気を育てる。

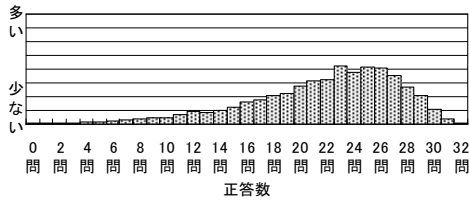
中学校 国語 A区分



一番外の枠は、10割の正答率ライン

-
-
-
-
-

中学校 国語 A区分(全32問)

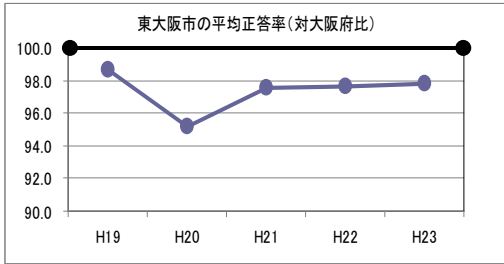


- 23 26
- 27

- 67.5
- 2.5
- 無答率 東大阪市:4.1%(昨年4.6%)
大阪府:4.0%(昨年3.9%)

100

20



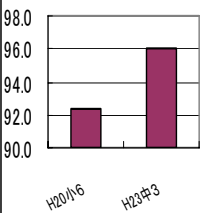
- 23 22 0.2 20
- 2.2
- 3.9

3

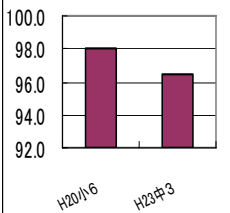
6

3 3 6 2
4631 3 3536

国語A 読むこと (対大阪府比)



国語A 話す・聞く (対大阪府比)



- 3.8
- 1.5

☆読書活動・言語活動の充実で、多様な表現方法を！

学校で取り組むこと

●段落ごとに要点整理をし、文章の構成を考える学習活動をより丁寧に行う。

●

家庭にお願いしたいこと

◆落ち着いて読書ができる環境を整える。

◆家庭での読書で、あらすじをたずねたり、感想を話しあったりする機会をふやす。

学校で取り組むこと

●文章を読み取って、ポイントを図で表したり、要点を整理して別の様式に書きなおすなど、文章をさまざまな視点から読み取り、表現する活動をふやす。

●全ての授業で言語活動の充実を一層図る。

家庭にお願いしたいこと

◆ポスターや看板など身近にある様々な表現について関心を持つような言葉かけをする。

◆手紙や葉書などを書く機会をふやし、相手や目的に応じた表現を選択できるようにする。

6.9

46.9

43.6

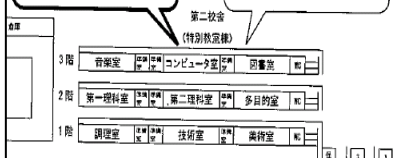
45.4

44.1

【吹き出しA】

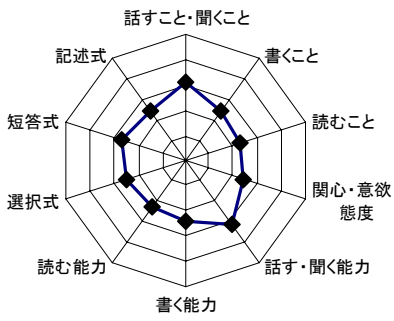
できます。

本を借りること
自習ができます。



話す・聞く等のコミュニケーション能力は比較的高く、「書く能力」に課題

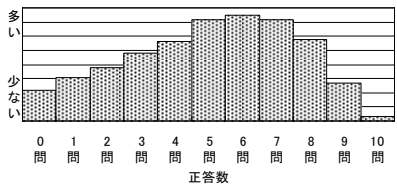
中学校 国語 B区分



一番外の枠は、10割の正答率ライン

-
-
-
-

中学校 国語 B区分(全10問)



-

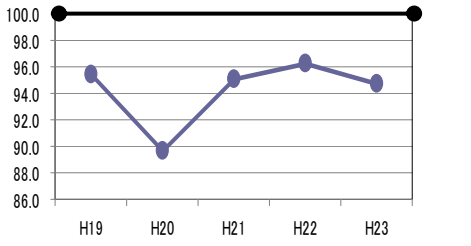
- 無答率 東大阪市:8.2%(昨年11.3%)
大阪府:7.3%(昨年9.7%)

- 無答率は減少傾向にあるが、正答数が0問の生徒も多い。

- 5Q 4
7.5

100

東大阪市の平均正答率(対大阪府比)



- 20
7.5
94.7
- 0.6
- 96.1

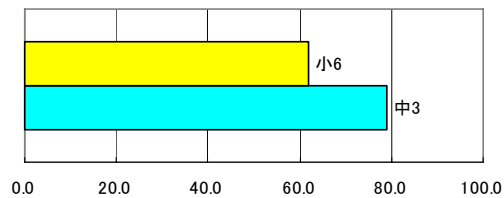
3

6

3 3 6 2
4631 3 3536

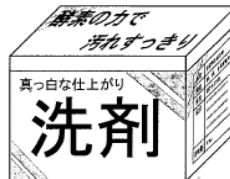
6

文章で解答する問題で最後まで書こうとした。



-
-

☆比べて読む、関連付けて読む活動で総合的な読む力の育成を！



【商品1】



【商品2】

<正答の条件>

- ① 商品1を選んでいる。
- ② 解答欄の前後の言葉につながるように、整った文章で書いている。
- ③ 本文の内容に基づいて、筆者の主張を適切に書いている。

● 88.1

学校で取り組むこと

- 文章全体の内容をつかみ、それを整理し、自分の考えや思いと合わせて、文章にする活動を積極的に取り入れる。
- 場面に応じた表現活動を工夫する。

家庭にお願いしたいこと

- ◆本や新聞記事を家庭内で共有して読み、その内容について話し合う機会をつくる。
- ◆広告やチラシなどの効果的な表現に気付き、家族で評価し合う機会をもつ。

〔語り手「私」の思い出として表現されている。以下はあらすじ。〕

学校で取り組むこと

- 本文を読み、その上、選択肢の短文から本文に合わないものを選ぶというのは、内容把握の深さが求められる。主題について、討論形式で考えを発表する中で、整理していくような学習活動を行う。

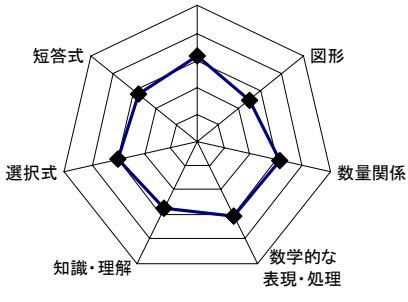
家庭にお願いしたいこと

- ◆いろいろなジャンルの書物に興味を持てるように言葉かけをする。
- ◆読書だけでなく、映画や絵画、音楽など様々な芸術作品に触れ、豊かに感じる機会を多くもつ。

1.2

18.6

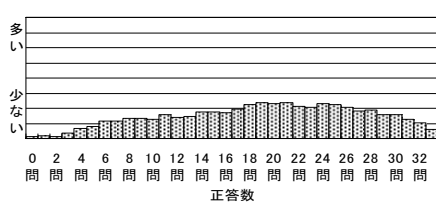
中学校 数学 A区分
数と式



一番外の枠は、10割の正答率ライン

-
-
-

中学校 数学 A区分(全32問)



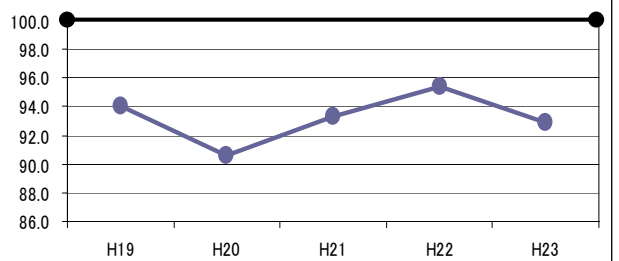
-

- 平均正答率は57.7%である。
(昨年度は2.0ポイント下降)
- 無答率 東大阪市:7.7%(昨年9.2%)
大阪府:6.6%(昨年8.0%)
-

5 100

- 92.9 2.7
- 5 5

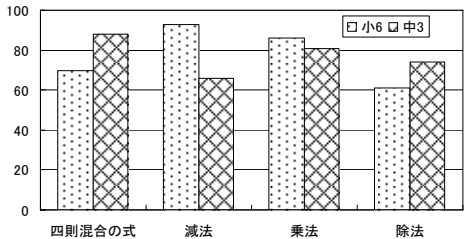
東大阪市の平均正答率(対大阪府比)



3 6

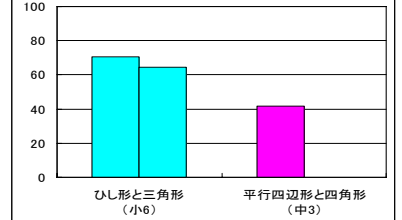
3 3 6 2
4631 3 3536

数の計算における比較
(中3の右3項目は文字を含む式)



- 計算する力については、中学校で文字を含む学習をすることを考慮すれば、まずは身についているといえる。

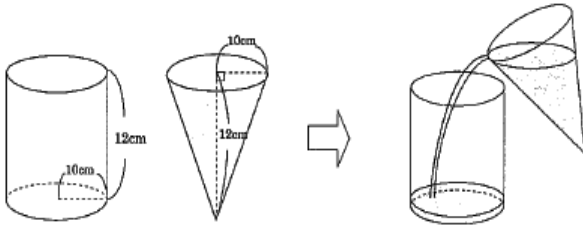
図形の性質における比較(正答率)



- 右上のグラフは小6時・中3時に出题された問題である。図形の特徴の理解に課題があるため、中学校でも同じ傾向がみられる。(小:2題 中:1題)

☆ともなって変わる数量の関係を表す！ ☆反復練習の重視を！

(3) 下図のように、底面の半径が 10cm、高さが 12cm の円柱と円錐の容器があります。円錐の容器いっぱいに入った水を円柱の容器に移します。このとき、円柱の容器に入る水の深さを求めなさい。



● 33.7% 28.2%

学校で取り組むこと

-
-

家庭にお願いしたいこと

- ◆
- ◆

12cm
cm
12km
km
12cm
cm 2

● 43.8% 38.6%

学校で取り組むこと

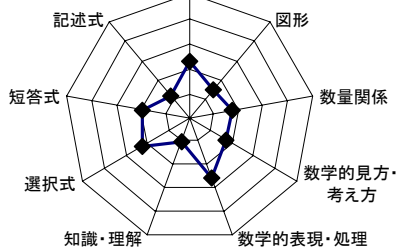
-
-

家庭にお願いしたいこと

- ◆
- ◆

中学校 数学 B区分

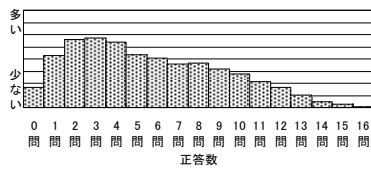
数と式



一番外の枠は、10割の正答率ライン

50%

中学校 数学 B区分(全16問)



●10
17%

3

6

1

- 平均正答率は35.0%である。
(昨年度より1.6ポイント下降)
- 無答率 東大阪市:21.1%(昨年28.0%)
大阪府:18.5%(昨年24.8%)
-

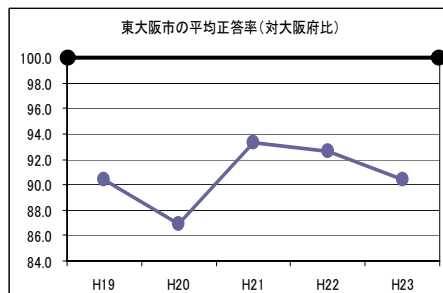
5

100

90

● 90.4
90

●領域別においては、特に「図形」「数量関係」で年々下降線をたどっている。特に、説明が必要な問題において課題が大きい。



3

6

3
4631

3
3

6
3536

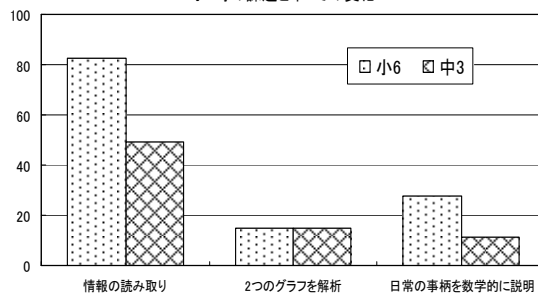
6

● 6 3

● 6 3

● 6 3

小6時の課題と中3での変化



☆多面的に見る力を養おう！ ☆自分の考えをしっかりと伝えよう！

5 牛乳をコップに入れようとしています。図1は牛乳パックの横断面で、□部は牛乳が入っている部分を示します。

図1

(1) 牛乳をコップに入れていくと、残りが図2のようになりました。このとき、牛乳の量は、図1のときのおよそその分の1であることがわかります。その理由を「底面積」という言葉を使って書きなさい。

図2

● 18.3%
● 14.9%

2:1

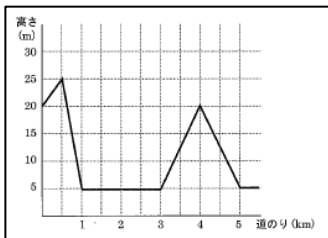
2:1

学校で取り組むこと

-
- 生徒の意見を引き出すとともに、既習の学習内容と関連付けながら、問題解決につながる筋道を立てるようにする。

家庭にお願いしたいこと

- ◆
- ◆



● 3 4
14.8% 16.1%

● 6 29.2%
3 16.4%

学校で取り組むこと

-
-

家庭にお願いしたいこと

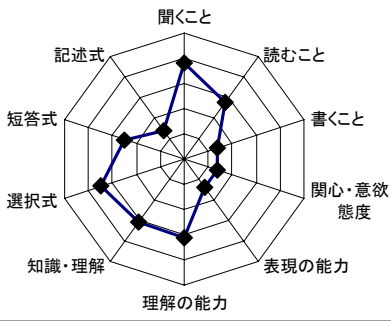
- ◆
- ◆

15.1%

17.0%

6

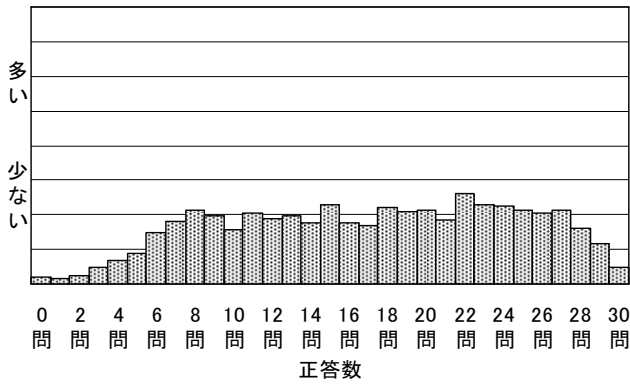
中学校 英語



一番外の枠は、10割の正答率ライン

-
-
-

中学校 英語(全30問)



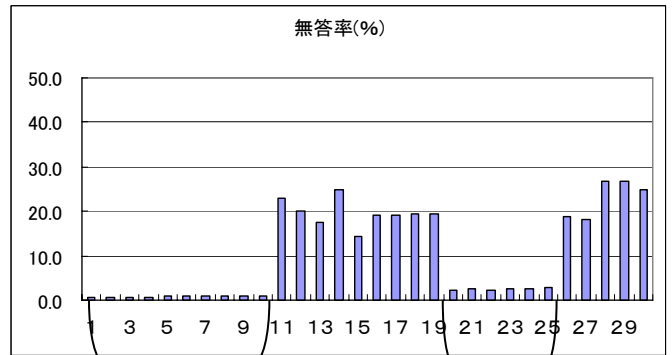
22

-
-

100

92.8

56.7



問1~10
選択式問題

問20~25
選択式問題

-
-
-
-

☆いろいろな場面で話す・聞く機会を！ ☆読解力・表現力の育成！

_____ ()

What are you going to do next Saturday?
My mother and I are going to visit my brother.
Where does he live?
In Tokyo.

Does he work there?

後に続く★のせりふを
選択肢より選ぶ

(選択肢)
ア No, he is a student.
イ No, he likes to cook.
ウ No, he has a brother.
エ No, he went yesterday.

正答:ア

●

6.9

学校で取り組むこと

●

●

家庭にお願いしたいこと

◆

◆

_____ 4 _____

I'll study in the (m). But I'm free in the afternoon.
I see. Let's go to Osaka Castle in the afternoon.
Sure. (W) (t) will we meet?
At two o'clock.

_____ morning What time _____

●

4.2 7.1

学校で取り組むこと

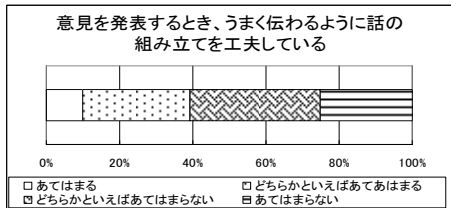
●

●

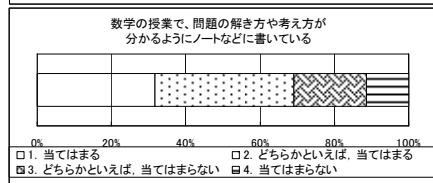
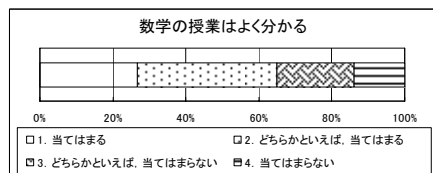
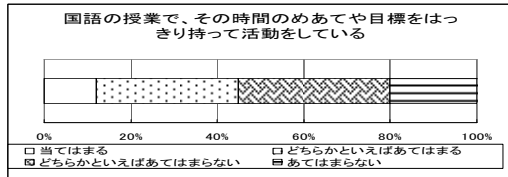
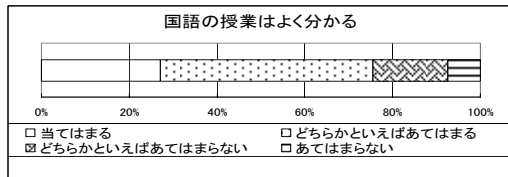
家庭にお願いしたいこと

◆

◆



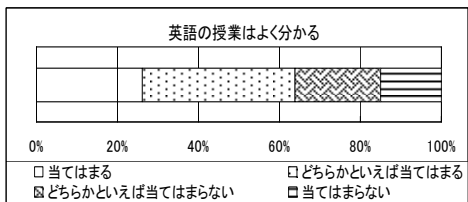
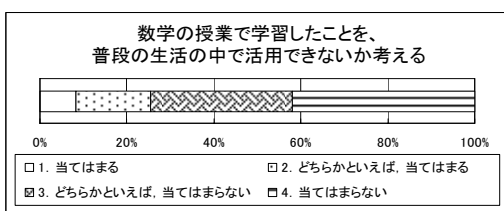
国語の授業への意識は高い。目標を明確にして、生徒の積極的な表現活動にうまいでいく！



授業で学習したことが、普段の生活につながることを意識させ、数学の楽しさが広がる工夫を！

6

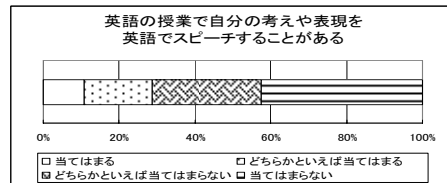
3



「授業がわかる」「英語が好き」と感じている生徒は比較的多い。スピーチや作文など自己表現する工夫をし、英語を活用する機会を増加を！

6

3



**「授業が分かる！」「授業が好き！」の気持ちを大切に！
学校でも家庭でも自分の思いや考えを表現できる工夫を！**

学校で取り組むこと

- 生徒の学ぶ意欲を大切に、授業の目標やめあてを明確にして、達成感を持つことのできる工夫をする。
- 生徒が発言する機会をふやしたり、話し合う学習活動を積極的に取り入れるなど言語活動の充実をさらに図る。
- 家庭学習定着への取組みを一層充実する。

家庭にお願いしたいこと

- 子どもとのコミュニケーションを大切に、子どもが自分の思いや考えを伝えやすい環境を整える。
- 規則正しい生活習慣を維持し、落ち着いて学習に取り組めるようにする。
- 将来の夢や目標について語り合う機会を持つ。